

○ 公開対談シリーズ 第3回 ○

まなざし  
NINAGAWA 千の目

## 蜷川幸雄 × 宮川彬良

(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督・演出家

作曲家・舞台音楽家

Yukio Ninagawa

『NINAGAWA千の目(まなざし)』、第3回のゲストは宮川彬良さん。作曲家であり舞台音楽家である宮川さんは、蜷川の舞台『身毒丸』『草迷宮』の音楽を担当。



Akira Miyagawa

特に生みの苦しみがあったという『身毒丸』の話を中心に、音楽と演劇の不思議で素敵な関係を、宮川さんのピアノ演奏も交え、語っていただいた。

## わかりにくいことが贅沢であると知った蜷川との仕事

蜷川(以下N) 『NINAGAWA千の目(まなざし)』シリーズ、第3回のゲストは宮川彬良さんです。お忙しい中おいで頂き、非常に友情の厚い行為と喜んでます。

この劇場で音楽劇『身毒丸』、『草迷宮』の作品と一緒に仕事をしました。その才能は本当に見事で感動しました。それらも含めてこれからお話をしますが、宮川さんとお会いするのは何年かぶりです。

宮川(以下M) お招き頂きありがとうございます。

N 宮川彬良さんです。宮川さんと一緒に仕事をした『身毒丸』で、初めての時は緊張しましたが、宮川さんは演出を見ながら稽古場でどんどん作っていきます。宮川さんは夢中になって稽古場の片隅で一生懸命にピアノを弾いて、「このまま帰ると途切れるから」とか言って近くのホテルに泊まっていた。

『身毒丸』で一番苦労したことは何ですか？

M それまで僕は演劇における音楽の役割とは、わかりやすいというのが何より前提だと思込んでいました。

それがあの寺山修司さんの本では、言葉が説明になった瞬間に死ぬ、面白くなるということがわかった。今までは説明をすればするほど面白くなるという方程式のはずだったのですが、自分の中でそれが崩壊して、全然これまで培ったいろいろな、それまでのお土産が使えなかったということです。

N 出だしのセリフが、「眼差しのおちゆく彼方ひらひらと、蝶になりゆく母の幻」これが一つのセリフという短歌なのです。そういう芝居なので、当然言葉にメロディーを乗せることもすごく大変だったのです。

M そうですね。わかりやすいということが、つまらないこととそこでわかってしまったのです。これってステキでしょう。僕は、結果的に「わかりにくいという贅沢がある」ということを知ったのです。

N 僕は寺山さんと同世代でいながら、なんとなく寺山さんの芝居が好きではなかったのです。寺山さんの文学的な才能は好きで、演劇

が好きではなかったのです。だから、『身毒丸』の制作中は、鬱々としながらのセットの大まかなプランの打合せだけをして、フェスティバルに参加する下見のためにイスラエルに行きました。パレスチナにも行って、その現状を見る中で感じたのは、「寺山修司(のセットプランにして)はどうもちゃっちゃいな」と思って、ガザから東京へ「全てのプラン変更」とファックスを送りました。

そして、日本に帰ってきてアドリブで演出しました。自分のその時の混乱そのものが演出に現れていたり、宮川さんが作る曲に刺激されたり、そして藤圭子さんが歌ってくれたりして……。

M あれはありがたかったですね。あの時の蜷川さんのパワーというか、やはり感じました。「これは藤圭子に歌ってもらおう」といわれた時には、この人は何を言い出すのだろう、藤さんは引退しているのだし、OKしてくれる訳がないじゃないかと思いましたが、「面白そうだから、やりたい」とおっしゃってくれたそうです。

N 思い続けるとちゃんと通じるんですね。言うだけは言ってみるもんですね。

M あれは恐れ入りました。

N 日本の古い物語、説教節のバリエーションとしての寺山さんがお書きになった本を宮川さんがやる。宮川さんはミュージカルなどもお書きになっているが、そういう格闘技みたいなのを繋いでくれるのは、藤さんのしゃがれた声、前近代を引きずっているような歌声だと思ったのです。そうすると寺山修司さんと宮川さんの曲に僕が考えるノイズが入られるという思いがありました。声がしゃがれているというのが結構僕には大事だったのです。

何か弾けないですか。

## 演劇とは対比だ。蜷川の言葉に、“ナスの理論”を発見

M じゃあ、最初に本を見た時に、この曲だけは書いておいたのを……。～ピアノ演奏～

宮川彬良(みやがわあきら)

1961年東京生まれ。81年東京芸術大学作曲科入学。劇団四季、東京ディズニーランド等のショー音楽を手がける。数々のミュージカルなどを作曲し高い評価を得ている自称・舞台音楽家。代表作に『身毒丸』(蜷川幸雄演出)『ハムレット』『ルビ子』など。一方、大阪フィル・ポップスコンサート、宝塚アンサンブル・ヘガなど、全国で演奏会を行っているほか、鮫島有美子、平原綾香など多くのアーティストとレコーディングセッションを行っている。96年『身毒丸』で読売演劇賞スタッフ賞受賞。同年「大阪フィル・ポップス」でABC国際音楽賞受賞。「マツケンサンバII」の作曲や、NHK教育テレビで放映中の『クインテット』(月曜から金曜の午後5時半から)で、お茶の間でもお馴染みに。

蜷川幸雄(にながわゆきお)  
埼玉県川口市出身。シェイクスピアはもとより、ギリシャ悲劇から日本の古典・現代劇まで幅広く手がけ、数々の名舞台を世界に送り出している。昨年も『近代能楽集』ニューヨーク公演、歌舞伎『NINAGAWA十二夜』、『女王メディア』、『天保十二年のシェイクスピア』など多数の演出を手がける。まさに世界を舞台に疾走し続ける演出家。2006年、第5回朝日舞台芸術賞特別大賞、第13回読売演劇大賞・大賞、最優秀演出家賞受賞。(財)埼玉県芸術文化振興財団芸術監督。